一枚起請文

もろこし我朝にもろもろの智者達の沙汰し申さる
る観念の念にもあらず　また学問をして念のこころ
を悟りて申す念佛にもあらず　ただ往生極楽のた
めには南無阿弥陀佛と申してうたがいなく往生す
るぞと思い取りて申す外に別の仔細候わず　た
だし三心 四修と申すこと の候うは皆決定して南
無阿弥陀佛にて往生するぞと思ううちにこもり
候うなり　この外に奥ふかき事を存ぜば二尊のあ
われみにはずれ本願にもれ候うべし　念佛を信ぜ
ん人はたとい一代の法をよくよく学すとも一文不
知の愚鈍の身になして　尼入道の無智のともがら
に同じうして智者のふるまいをせずしてただ一向に
念佛すべし　　為証以て両手印

浄土宗の安心 起行この一紙に至極せり　源空が
所存この外に全く別義を存ぜず　滅後の邪義を
ふせがんがために所存をしるし畢んぬ

建暦二年正月二十三日　大師在御判

為

願主

年　　月　　日

浄書